

いわき市立桶売小学校「学校だより」

おけうり

令和5年3月1日（水） 第27号（発行者：大木 淳）

<教育目標>

- ☆進んで学ぶ子ども(知)
- ☆健康でたくましい子ども(体)
- ☆みんなで助け合う子ども(徳)

<校章の由来>

外形は学校を取り囲む山々を表し、その内側には健やかな成長と社会貢献を願い、杉の若芽が描かれています。



弥生3月 授業日16日あまり

令和4年度も残りわずかとなってきました。

前回の学校だよりでお知らせいたしました、3月は、学校外からいらっしやっでご指導いただいた先生方の最終来校日があります。先日は、読書サポートティーチャーの村田先生との別れがありました。

村田先生は6年間で振り返り「読み聞かせを行った際の感想発表が素晴らしくて、いつもいつも感動していた、ありがとう」と溢れる感情を抑えながらお話してくださいました。「さよならは別れの言葉じゃなくて、再び会うまでの遠い約束」です。いつかまた、お目にかかることができることを祈っています。

3月は、わずか16日の授業日です。2年ぶりの卒業式にむけて、焦らずたゆまずたじろがず、学校運営を一つ一つ着実に進めてまいりたいと考えております。



ありがとう！おでかけアリオス

2月24日（金）午後1時30分から、体育館にて「おでかけアリオス ピアノコンサート」が開催されました。本校の児童と教職員が参加しましたが、それ以上に川前町にお住まいの方々がたくさんいらっしやり、用意していた座席が満席になるほどでした。

ショパンの華麗なる大円舞曲をはじめ、モーツアルトのトルコ行進曲、ドビュッシーの月の光、ベートーベンの月光、同じく悲愴（全楽章）とあつという間の1時間でした。ピアノとの距離がとても近くて、普段は感じ取ることができない音圧やピアノッシモ（とても弱い音をピアノで出すのはとても難しい）のタッチを聞くことができました。



コンサートを通して、曲の感じ方や好みは人によって異なるけれど、それぞれの曲や演奏者の表現には様々なよさがあって、それをいかに感じ取るかが大切だと感じました。

会を主催していただきました、いわき芸術文化交流館アリオスのスタッフの皆様、ピアニストの鈴木香保里先生、おいでくださいました地域の皆様に感謝申し上げます。

未来のためにできることは何だろう

二酸化炭素の大量排出が喫緊の課題であり、このままだと2050年には平均気温が5℃上昇するらしいです。海面上昇による低い土地の浸水、ゲリラ豪雨の多発、砂漠化、食料生産の減少と、いいことは一つもありません。

理科の授業で学んだ森林のはたらきについて、さらに専門的な知見を得られるよう、市農林水産部林務課の吉野先生をお招きして、お話をうかがいました。先生によると、今の便利な生活を昔のように戻すことはできないから、少しでも二酸化炭素の発生を抑える努力を一人一人が心掛けること。例えば、電気を節約することで火力発電の割合を下げることにつながる、とのこと。



令和4年度学校経営運営報告

重点事項

ふるさとを愛する「たくましく しまやかな 桶売の子」

実践事項

1 学び合い〈知〉

(1) 確かな学力の定着

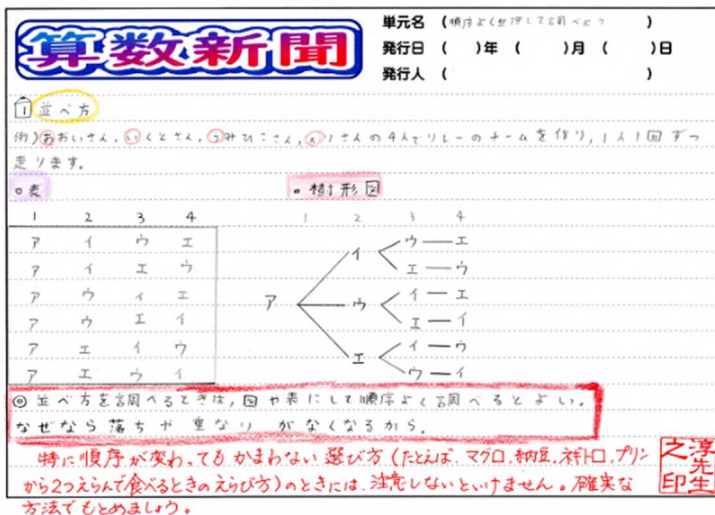
考えを発表する・書き残す	<ul style="list-style-type: none"> ・「事実」「根拠」「結論」の流れによる発表 ・マイブック・マイノートづくり (教科書への書込、学習新聞づくり)
個別最適化・協働的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用したドリル学習 ・職員が一人の学習者として授業へ参加 (栄養教室、明夢祭の発表、調理実習、収穫祭…)
多くの価値観	<ul style="list-style-type: none"> ・ズームやGoogleミートによる他校生徒の交流 (ビブリオバトル：書評対決)

(2) 学習習慣の確立

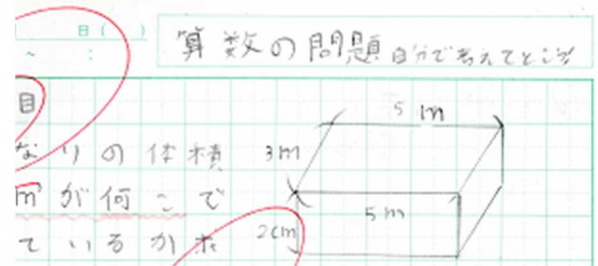
家庭学習の習慣化	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習の推進 (教科書の内容のまとめ、テスト対策)
ICT機器の持ち帰り	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用したドリル学習 (学校閉鎖等を予測した遠隔授業への対応)

(3) 地域と共にある学校

地域の「財産」活用	<ul style="list-style-type: none"> ・「おけうりっ子畑」の運営・地域人材の活用 (耕うん、苗植え、除草、収穫、収穫祭) ・「川前町観光地ブック」の完成 (公民館、支所、神社、寺院、石碑、樹木、催し物)
学校評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学期末に保護者・児童・職員対象にアンケート調査 (教育課程の改善、実施方法等の精査)



← 算数新聞を作成し、単元での学習を振り返る。



↑ 自主学習ノートより「自分で考えた問題を解く」



← 遠隔会議システムで他校の友だちと意見を発表し合う。

地域の方においでいただき今年のおけうりっ子畑について、助言をいただく。



2 鍛え合い〈体〉

(1) 体力の向上と「伸び」の実感

学習カードの活用	・ タイムや距離の計測結果の集約 (達成目標の具体化、記録の累積による伸びの実感)
I C T機器の活用	・ 運動の客観化 (タブレット端末による撮影・改善点の明確化)

(2) 健康で安全な生活

家庭との連携	・ 給食だよりや食育通信、ほけんだよりの発行 すこやかタイム使用資料の配布、個別面談
自分手帳の活用	・ 身体測定記録、各種運動記録 (成長の実感)
食育の推進	・ 毎日の給食時指導、地場産品の活用、献立の工夫 (トラベル給食、カミカミ給食、魚食給食…)



↑ 今までの記録を確認してスタートに臨む。

↓ 毎月「すこやかタイム」で時季に合わせた保健指導を実施。



↑ 朝食を見直そう週間で食べてきたものを表にまとめる。

3 助け合い〈徳〉

(1) 道徳化の授業推進

授業の質的改善	・ 価値理解、他者理解、自己理解に基づく授業 (普段の生活における自分の行動に立ち返る)
体験活動との関連	・ 様々な行事における他者とのつながり (職員、中学生、中学校職員、家族、地域住民…)

(2) 小中連携

小中合同行事の推進	・ 避難訓練、授業参観、スポーツフェスティバル、校外学習(放射線教育)、明夢祭、正月飾り制作等
中学校の授業体験	・ 互見授業の参観(校種と指導方法の違いを理解) ・ 中学校での授業に参加(栄養教室、防災教室、情報モラル教室など) ・ 中学校数学の内容を予習



↑ 中学校の体育科教員にリレーバトンの渡し方を教えていただく。

↓ 霧箱をのぞいてα線やβ線の軌跡を見つめる。(校外学習)



↑ 水消火器で初期消火訓練を体験。